



# なきごえ



1994

11



(撮影：竹田 正人)

- 2 — New Face フランソワルトンの赤ちゃん誕生(竹田正人)
- 3 — 動物と私 絵の中の動物たち(田辺俊夫)  
カバーウォッチング サシバ
- 4 — 身近な夜行性動物③  
アブラコウモリ(前田喜四雄)
- 6 — アカゲラの食性について(藤井秀樹)
- 8 — グラフZOO 中国の動物園さまざま(吉本昌俊)
- 10 — 獣医室から⑥ ゴリラの健康診断(宮下 実)
- 11 — ZOO DIARY

### カバーウォッチング

サシバ  
タカ目 タカ科  
*Butastur indicus*

日本では夏鳥で、山形県以南の本州から九州までの低山帯で繁殖し、10月初旬から大群をつくり、フィリピン、ボルネオ島、スマトラ島、ニューギニアまで渡ります。

(撮影：堀内 智生)

## ||||| 動物と私 |||||

### 絵の中の動物たち

**私**が動物の絵を描くようになったのは、動物保護や環境問題に関心があったからではなく、単に自分の絵のタッチに動物が合うのではないかと思ったからでした。そのため最初は形や色だけにとらわれ、本や写真などの資料を中心に描き始めました。しかし、写真や本で詳しい内容を知るうちに、野生動物たちの抱える多くの問題に、興味を持つようになりました。そこで、生きている動物たちを見るために、ここ何年かは行くことのなかった動物園を訪ねてみることにしました。

何気なく出かけた動物園ではありましたが、そこはとても懐かしい空間でした。動物園の周りの町並みも、動物園内の風景も、かつて訪れた頃とはすっかり変わっていましたが、私にとって様々な思い出の詰った空間でした。この時以来、私は動物園へ度々足を運ぶようになりました。

**そ**うしているうちに、動物や動物園に対する考え方が変化してきました。もちろんそれにつれて私の絵に対する考え方も変化してきました。それまでは、動物は本やテレビで見るものぐらいにしか考えていませんでしたので、動物保護や環境問題などは、誰かがやってくれるものだと思っていました。しかし、分らないなりに専門書や図鑑などでいろいろな知識を得てから、動物を観察すると、いろいろなことが分り始めてきました。

### ← フランソワルトンの赤ちゃん誕生

9月19日にフランソワルトンの赤ちゃんが生まれました。ほとんど全身黒色のサルですが、赤ちゃんは黄金色をしています。カラーでお見せできないのが残念です。



田辺 俊夫 さん  
(イラストレーター)

「読む知識」の内容は、あいかわらず深刻なものが多かったのですが、「見る知識」の方は楽しいものでした。ここでいう「読む知識」とは本や写真で得る知識で、「見る知識」は実物を見て得る知識のことですが、私にとって「見る知識」はもっぱら動物園で動物たちを見ることでした。

動物園といえば、自然保護を訴える人たちの中にはマユをひそめる人もいますが、私はそうは思いません。もちろん自然の中で動物を観察する方が良いことは決まり切ったことなのですが、動物園の動物もよく見ると、そこには小さいながらも、自然のいとなみと人とのかかわりを感じることができるような気がします。本やテレビの方がより多くの知識や情報が得られるとは思っていますが、すべての五感で感じ、体験できるものではありません。それに反して動物園では、たとえ疑似体験とはいっても、ほんとうの動物を感じることはできるのではないのでしょうか。環境問題や動物の保護を考える場合、動物園で体験した動物のいとなみや人とのかかわり、見た体験が役にたつのではないのでしょうか。

— うして、私自身は思考錯誤するうちに動物の見方が変化し、絵の表現方法も、変わっていくことを実感しました。私は、むずかしい表現や見た人が考え込むような絵は好きではありません。多くの人に見てもらえ、共鳴してもらえるような絵を描かなければならないと考えています。そこで、私は動物と絵と人との接点をもとめて描くことにしました。その成果を多くの人たちに見てもらいたいと思うようになり、その場を動物園に求めたいと思うようになりました。

動物園で2年間描きためた作品の展示会をしてもらえないかと、無理なお願いをしました。まことにかってな話だったのですが、意外にも気軽に引き受けてくださり、10月18日から11月6日まで園内の展示室で個展を開かせていただきました。

(たなべ としお)

# 身近な夜行性動物 第3回 アブラコウモリ

前田 喜四雄  
(奈良教育大学自然環境教育センター)

「コウモリ」と聞くと、ドラキュラやバンパイア、血吸いコウモリなどを思いだし、どちらかというとあまり良いイメージがわからないのではないのでしょうか。しかし、それはコウモリに対する誤った知識、偏見、あるいは本当のコウモリとはどういうものかということを知らない無知からくるものと思われます。「血を吸うなんてまったくのウソ！コウモリは鳥が活躍しない夜にたくさんのお虫を捕って食べてくれるので大変人の役に立っているのです。だから嫌うよりも、むしろ保護しなければならぬのです。」と言われたら、何という感想をいだくのでしょうか。

それでは最初からコウモリについて話しをします。コウモリとは鳥ではなく、哺乳動物の一員で、しかも唯一自由に空を飛ぶことができる仲間です。空を自由に飛べる秘密は、手の平や指の骨が長く伸びてそれらの間、そして手と足と体の間にも薄い皮膚の膜が発達して飛ぶための翼になっていることです。その薄い膜が乾燥しないためと、昼間は鳥が活躍しているので、コウモリは鳥が休んでいる夕方から夜にかけて空を飛んで餌を捕るようになったと言われています。

コウモリは世界中に広く分布し、その種の数は約千と大変多く、地球上にいる全哺乳動物約4千種のうちの4分の1を占めるといわれています。日本ではどうかというと、陸上に生息する哺乳動物が100種で、そのうちの約3分の1にあたる31種のコウモリが記録されています。いずれにしてもコウモリは身近なものでないとか、目にすることが少ないとか、マスコミにほとんど登場しないなどの理由であまり人に知られていませんが、哺乳動物の中では大きなグループです。

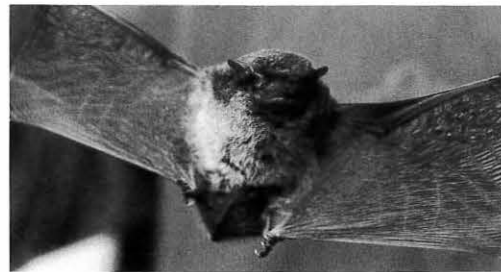
コウモリは大きく2つのグループに分けられます。1つはオオコウモリと言われる仲間で、文字どおり比較的体が大きく、翼を広げると1mにもなる大型の種を含みます。大きな目で、主に果物や花粉・花蜜

を探して食べる仲間で、昼間はまるで木の枝に果物がたくさんぶら下がっているように集団で過ごし、夕方になると餌を取りに出かけます。日本では沖縄、小笠原などの年中果物が実っている暖かい地域に2種が住んでいます。天王寺動物園で飼育されているエジプトルーセットオオコウモリはこの仲間です。

もう1方はコガタコウモリで、多くは名前の通り翼を広げても40cmにもならないのです。小型のものでは翼を広げた長さが20cm、体重が4グラム(1円硬貨4枚分です)のものもいます。小さな目を持ち、これでは明るさしか感じないと言われており、鼻や口から発射した超音波(人の耳には聞こえない周波数の高い音波)の反射音を受けて、餌や物の位置を判断します。飛行機や船、魚群探知機のレーダーは電波ですが、コウモリのは音の波です。したがって、例え複雑な障害物があっても、真っ暗闇でも自由にそれを避けて飛ぶことができます。この仲間は温帯や寒帯などにも広く分布し、夕方から夜にかけて、活動し、主に飛んでいる昆虫類を捕って食べます。しかもその食べる量は大変に多く、1晩に体重の半分くらいの虫を捕ります。しかし、昆虫が活動しない冬には、体温を下げてエネルギーの消費を少なくし、皮膚の下に蓄えた脂肪でもって冬を乗切るといって冬眠をします。

日本ではこの小型コウモリが29種と多く、そのうち17種ぐらいが昼間は樹洞を寝ぐらにしています。樹洞というのは木に開いている穴やほころで、できあがるのに百年とかそれ以上といった長年月を必要とするので、樹洞の多くは昔からあり、人によって切り倒されなかった大木にしか見つかりません。最近このような大木がどんどん切り倒されています。したがって、コウモリが昼間の隠れ家として利用できる樹洞は最近では山奥にしか見つからなくなっており、コウモリの個体数は大変に少なくなり、分布域も大変せばめられています。しかたなく、これらのコウモリの一部は昼間の隠れ家として家屋や洞穴を利用するようになってい

ます。一般にコウモリは洞穴に住むものと思われていますが、日本では10種ぐらいが昔から洞



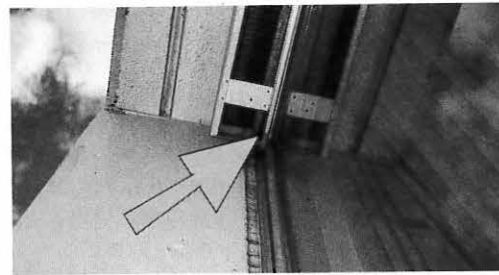
アブラコウモリ

穴を昼間の隠れ家にするだけで、特別に多くはないのです。

その他に、日本には一年中、家屋を昼間の隠れ家にするコウモリが1種だけいます。これがアブラコウモリ(家に住むのでイエコウモリとも呼ばれる)です。他のすべてのコウモリが人口が増えてくると姿を消すのと異なり、北海道を除いたむしろ平野部の人口密集地に生息しています。しかも興味深いことに、山間部にはほとんど分布していないということです。

大阪では泉南の山地など人が住んでいない地域を除き、広く分布しています。ちょっとした市街地やその周辺にある住宅地はもちろんのこと、天王寺周辺、道頓堀といった中心部でも知られています。

家屋に住むとはいっても、具体的には屋根裏、瓦の下、モルタルと板壁の間、はめ板と壁の間、戸袋の中などを隠れ家にして多くの場合20~80個体ぐらいの群れで生活しています。しかし、最近の新築家屋ではこのようなコウモリの入り込める隙間が少なくなってしまったためか、鉄筋コンクリートのビルディングにできたちょっとした隙間を利用しているのも知られています。



こんなビルの隙間にもコウモリの入口がある

夕方になり、日没ころにこのような隠れ家から飛びだしてきて、飛びながら餌となるカや小型のカゲロウなどのような昆虫類を捕って食べます。その食べる量が非常に多く、アブラコウモリの体重は6~7グラムですが、「カ」の大きさの虫だと1晩に1頭のコウモリが400匹くらいを捕まえて食べます。このコウモリが50頭の群れを作っているとすると、1晩に2万匹の昆虫が食べられることとなります。これが毎晩続くとすれば、コウモリが住み着いている地域の昆虫類の個体数がいかに影響を受けるかがわかると思います。日没ころに飛び始めたコウモリは多くの場合1~2時間でお腹がいっぱいになり、隠れ家やその周辺で一度休息にはいります。そして、日の出前にもう1度1~2時間飛び回って餌を捕り、隠れ家に帰り、昼間はそこで寝て過ごします。

大阪周辺では冬眠のため、11月末ころからアブラコウモリの姿を見かけなくなり、春には3月中



コウモリが好んで使用する壁板の家屋

旬にまた飛翔する姿を目にするようになります。出産は6月末から7月初めであり、1度に1~3頭、おおくは2頭が生まれます。生まれた子は裸で目も見えないのですが、足はすでに大きく発達して、親に自分でつかまったり、夜に餌を捕りに出かける時には自分で隠れ家にぶら下がっていることができます。成長は早く、25日で親と同じくらいの大きさになり、飛ぶことができるようになります。そして、冬にそなえて体に栄養分を蓄えます。

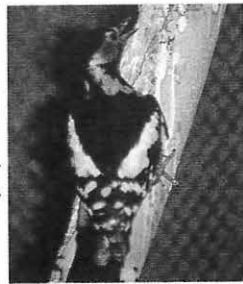
最後に大変に誤解されているチスイコウモリ、いわゆるバンパイアについてふれます。確かに血を餌にするコウモリは中南米の亜熱帯、熱帯地域だけに3種います。アフリカとか東南アジアにはいないのです。ここにわざと血を餌にすると言ったのは深い意味があります。チスイコウモリというイメージからはどうしても「カ」のように管を動物や人の体に差し込んで血をチュウチュウと吸い取るということになります。しかし、実際は動物の毛の少ないところにそっと止り、鋭い歯で動物の皮膚をほんの少しだけ傷つけ、そこから少しずつにじみだしてくる血をなめるだけなのです。考えようによっては別にどうということもないぐらいなのです。しかも、もし動物がこのことに気がつく、尾っぽでたたいたり、木にコウモリをこすりつけたりするので、静かに動物に気がつかれないように血をいただくのです。これが映画やTVドラマになると、洞穴にはいった人にコウモリが全身にまとわりついて血を体から吸い取ってしまったり人が死んでしまうようになります。しかもこれがアフリカだったり、地中海地方だったりするので、事実とはまったく異なったこのようなことになってコウモリが誤解されてしまっているのです。

このチスイコウモリが本当に恐ろしいのは、動物から動物へ血をなめて渡り歩くので、それによって、カが日本脳炎を伝染させるように、現地の脳炎などを媒介することなのです。血をなめられるくらい全くどうということはないのです。

(まえだ きしお)

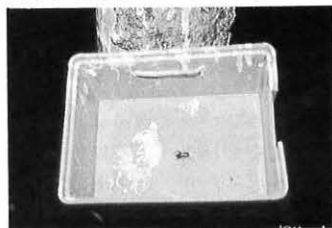
# アカゲラの食性について

**キ** ツツキの仲間には野生では昆虫類や木の実に食べていると言われています。天王寺動物園では、キツツキの仲間であるアカゲラをミルワーム(甲虫の幼虫)と配合飼料(木の実に昆虫などを原料にした飼料)を与えて飼育してきましたが、その他の飼料を与えても、採食するのだろうか疑問に思い調べてみることにしました。今回は、その食性を調べるために今までに与えたことのない動物質、植物質合わせて25種類の飼料を給餌し、その嗜好性を調べましたのでその結果をお話したいと思います。



アカゲラ

**給** 餌した飼料はオキアミ、アジ、チリメンジャコ、イカ、ネブラスカ(ミンチ状の動物園のネコ科動物用飼料)、馬肉、鶏肉、牛レバー、ミミズ、コウロギ、ピンクマウス(マウスの赤ちゃん)、クモ、チャバネゴキブリ、ダンゴムシ、ナメクジ、ゆで卵の黄身、ゆで卵の白身、トマト、むしたサツマイモ、ハクサイ、ニンジン、バナナ、リンゴ、ミカン、パンの25種類です。生き餌などの他は1cmぐらいの大きさに切って与えました。飼育室内に立ててある丸太に、餌入れ容器が取り付けられており、その中に1種類(1個)ずつ入れて給餌し、観察してみました。なお、嗜好性の調査時には常時給餌しているミルワームと配合飼料はすべて回収しお腹をすかせてから実験を行なうようにしました。なぜならばほとんど採食しない



丸太に取りつけた餌入れ容器

だろうと予想したからです。さて実験開始です。初日はオキアミを給餌しました。が、まったく採食しません。まったく餌入れ容器の中をのぞこうとしません。しかたなく、オキアミを取り出しミミズを給餌しましたが同じように見向きもしません。時間だけが刻々と過ぎました。とりあえずこの日はオキアミ、ミミズともに給餌したままにしました。次の日の朝、餌入れ容器をのぞいてみるとオキアミとミミズは無く

なっていました。アカゲラが採食したかどうかはわかりませんが、容器から下に落ちていたのかと思ひ地面を探しまわったが見あたりません。ゴキブリあるいはネズミの仔でも侵入してきて食べてしまったのでしょうか、実際にアカゲラが採食するところは、観察できませんでした。

**2** 日目は、アジとネブラスカを給餌しました。しかし事態はオキアミとミミズの時と同様、採食するどころか見向きもしませんでした。「やはり、普段与えられていない飼料ではだめだ。反応がない。」とあきらめかけてしまいました。しかし、1時間半後に再び観察したところ、ネブラスカもアジも無くなっていました。地面をさがしても見あたりません。見ていない時に限って無くなってしまふ。やはり何者かが侵入してきて盗み食いをしているのでしょうか。確認のため、再びネブラスカを与えて観察を続けました。観察を続けること約5分、1羽のアカゲラがネブラスカの入っている容器が取り付けられている丸太にとまり容器に近づきました。容器の中をのぞき込んだ瞬間、ネブラスカをくわえて飲み込みました。「あっ!! とうとう食べた」思わず心の中で叫んでしまいました。1度はあきらめかけていたのでほんとうに感激しました。

次に馬肉のミンチを食べるのだから普通の馬肉を与えても食べるだろう、と思ひ給餌してみたところすぐに採食しました。それでは実験初日に与えてまったく見向きもしなかったミミズを与えてみてはどうか、と思ひこれは採食しないだろうとは予想しましたが給餌してみると、やはりくちばしでつつくだけで採食しませんでした。次に、採食はしなかったが、いつの間にか無くなっていたアジを給餌すると意外なことにすぐに採食してしまいました。このときアカゲラは魚も食べるのかと驚きました。ではもう1つまったく採食しなかったオキアミを給餌するとこれも採食してしまいました。この時点で何者かの侵入者によって食べられてしまったのではなく、アカゲラが採食する、あるいは興味を持ってつづいていたということがわかりました。1つの謎が解けたところで他のいろいろな飼料を給餌しました。

**実** 験3日目には、生き餌であるコウロギを給餌しました。これはすぐに採食しました。自然にいる昆虫なので、野生でも採食しているかもしれせん。次に生きたピンクマウスを給餌しました。まさか、哺乳類である生きたネズミの仔を

アカゲラが採食することはないと思ひましたが、生まれて数日のピンクマウスを給餌すると、くわえて他の木へ持ち運びました。ただ食べるまではいかないと思ひていましたが観察を続けると、木の割れ目や、小さな穴にピンクマウスをつめこみ、そこからつついてピンクマウスの肉を少しずつ採食しているではありませんか。なんと、アカゲラは、生きた哺乳類まで食べてしまったのです。次に鶏肉を給餌しました。これもすぐに採食しました。これは生き餌ではありませんが鳥類も食べることがわかりました。ちょっと変わったものでチリメンジャコを給餌しましたが、これは採食するどころか見向きもしませんでした。長時間観察してもまったく食べませんでした。

さて、実験4日目にはイカを給餌しました。これはすぐに採食しました。魚介類でチリメンジャコだけ採食しませんでした。さて次に牛のレバーを給餌しました。これはすぐに採食しました。肉類だけでなく内臓も採食することがわかりました。

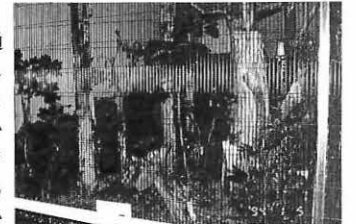
他の動物質の飼料を与えた結果はゆで卵黄身、白身、クモ、チャバネゴキブリ、ダンゴムシ、ナメクジのうち、ナメクジ以外は採食しました。ナメクジは興味を示し、くちばしで何度もつつきはするものの採食確認までは至りませんでした。

**次** に植物質の飼料に移り、まずむしたサツマイモから給餌しましたが容器の中はのぞき込んでいるのですがまったく採食しませんでした。次にパンを給餌してみるとこれは採食しました。次にトマトを給餌すると興味を示しつつきはするものの採食しませんでした。次にバナナを給餌するとまったく興味を示しませんでした。

5日目以後、実験日数を重ねて観察した結果は、ハクサイは興味を示さず採食せず。ニンジンには興味を示しつつきはするものの採食せず。リンゴも興味を示さず採食せず。ミカンは興味を示しつつきはするものの採食しませんでした。以上で25種類の飼料をすべて給餌し実験を終了しました。

**実** 験結果は、表のとおりで、動物質の方が植物質のものより嗜好性が強く、採食しなかった飼料では、生きているものでナメクジ、ミミズのように表面が湿ってぶよぶよしたものは興味はもっても採食するには嫌うように思われます。また、生き餌以外のものでもチリメンジャコのように水分が少ないとまったく採食しないものもありましたが、半なまタイプのシラスでは水分があるので採食する可能性があるのではないかと思います。

植物質の飼料ではトマト、ニンジン、ミカンに関心を示しているのですが、これは赤色という色に興味をもったのではないかと思います。(なおリンゴは、赤い皮をつけずに中の果実のみを給餌しました。)パンを採食したのは意外でありました。採食されたものは動物質が圧倒的に多く、野生では採食できない飼料も好食しているところから、キツツキ類には動物性蛋白質がかなり必要であると思われます。しかし動物質だけでなく、多くの栄養が必要だということがわかったことがありました。配合飼料をほとんど採食しなかったので給餌する間隔を少しあけた時に1羽のアカゲラが死亡してしまいました。解剖の結果、尿酸塩沈着症と診断され、栄養がかたよった結果、死につながったのです。微量ながら木の実や昆虫を原料とした配合飼料を常に必要としていたでしょう。そこからビタミンなどを摂取していたようです。



アカゲラの飼育場

この観察を通じていろいろな発見がありましたが、もしかするとアカゲラが鳥の中でいちばんのグルメかも知れません。そしていろいろな餌から多くの栄養を摂取することは非常に大切だということを改めて考えさせられたような気がします。

(飼育課：藤井 秀樹)

## 給与した餌とその嗜好性

動物質	魚介類	オキアミ	アジ	チリメンジャコ	イカ			
	肉類	ネブラスカ	馬肉	鶏肉	牛レバー			
	生き餌	ミミズ	コウロギ	ピンクマウス	クモ	チャバネゴキブリ	ダンゴムシ	ナメクジ
	その他	ゆで卵白身	ゆで卵黄身					
植物質	野菜	トマト	ムシイモ	ハクサイ	ニンジン			
	果物	バナナ	リンゴ	ミカン				
	その他	パン						

完全採食した餌、嗜好性良好  
 採食はしないが興味をもった餌  
 まったく無関心の餌

# グレートZOO 中国の動物園さまざま

'94 9月20日から28日まで  
中国の動物園を訪門しました。  
そのうち、いくつかを紹介しま  
しょう。

(撮影：吉本 昌俊)



まず園内風景は……  
木々が多く、林を切り開いた  
という感じの風景が多くあり  
ました。

## 上海動物園



シマウマがいるサバンナの風景を陶板に焼いたもの。  
すばらしい背景でした。



ジャイアントパンダは、中国  
でも人気の高い動物で室内展  
示館は立派なものでした。

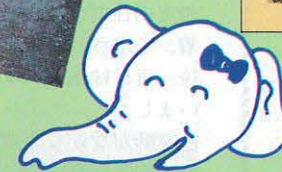


室内展示室入口 ▶

ジャイアントパンダの広い屋外展示場。  
見えますか？  
出入口の前で寝そべっていました。



夕暮れどきの内モンゴルも見学？  
実はまだ未公開の。学教育館の  
ラマです。  
迫力のある壁画でした。



## 北京動物園

繁殖しています。



ヨウスコウワニ (写真は3歳)



オグロヅル (今年は7羽繁殖)

# 獣医室から

63

## ゴリラの健康診断

9月5日、当園のニシローランドゴリラのオス(愛称ゴロ)の健康診断をやったのことで行いました。これは昨年から実施したいと思いつきながら、なかなか実行に移せず、ずるずると1年を経過してしまっただけです。一口に健康診断といっても、網で捕えられるような小さなサルとは違い、恐らく200kgはあると思われるオトナのゴリラを検診しようというのですから、なかなか踏み切りがつかないものでした。エッ!ゴリラって人に慣れていて何でも言うことをきくんじゃないかですって!!

確かにゴリラは頭のいい動物ですし、人の言うこともよく分かってくれます。しかし検診のためには採血やレントゲン撮影をしなければなりませんし、さらには糞虫検査—これはお尻にセロファンテープを張りつける小学生もいやがる検査—や細菌検査のために喉の奥に綿棒を突っ込んで粘液も採取しなければなりません。またツベルクリン注射もしますが、人のように腕にするのではなく、脇に注射します。

これだけの検査を“ゴロ”君が素直にに応じてくれるとはとても思えません。従って麻酔という方法に頼るしかないわけですが、万に一つ、麻酔事故ということもあり得るわけですし、なによりも正確な体重が分からないまま、麻酔の注射をしな



れればなりませんから、目測を誤ると大変なことになります。また、あの巨体ですから、動物病院へ運ぶのにも最低8人の手を借りなければなりません。

この健康診断にあたっては、前々日にスタッフのミーティングを開き、麻酔、運搬、検査の手順

について説明し、それぞれの役割分担を決めました。麻酔班、輸送班、記録班、レントゲン班、検査班・・・総勢15名が協力して作業にあたることになりました。

当日、朝8時15分に豆乳に混ぜた鎮静剤の投薬にまず成功しました。前夜は絶食ですからお腹も空いていたのでしょう。9時30分、薬の効果で“ゴロ”は動きが緩慢になってきました。

10時、ピストルで麻酔薬注射、10分後には刺激にもまったく反応しなくなりました。さあ輸送班の登場です。用意した大きな網の上に“ゴロ”を横たえ、まずはゴリラ舎の外へと引きずり出すことにしました。外には運送用の車輛が待機し100m離れた動物病院へ。病院の前には2000kgまで計れる電子計量器が設置され、まずは体重測定から始めました。

実は麻酔薬の量を決める際、体重を200~220kgと見積もっていましたが、“ゴロ”は1967年に来園しましたが、大人になってからは体重測定などしたこともなく、まさに長年の経験と勘による推測です。麻酔が途中で覚めると大変ですので、多めの220kgとして麻酔薬を注射しました。“ゴロ”を体重計に乗せて表示された重さはなんと219kg、びっくりする位に当たりました。



レントゲン撮影の準備中

レントゲン撮影の準備中

麻酔がなかなか覚めず少し心配させられました。麻酔開始から4時間経過してやっと覚醒に向かいました。

3日後、ほとんどの検査結果が出そろい、肝臓や腎臓の機能障害もなく、また感染症のおそれもなく、“ゴロ”の検診結果は良好と診断できました。

ゴリラの初めての健康診断、なかなか大変な作業でしたが、携わったスタッフ全員の一一致団結した協力の結果が、無事な検診に結びついたのです。それにしてもゴリラのような大きな動物の健康診断なんてそうそうやりたくはないですね。

(飼育課:宮下 実)

身体測定に続き、胸の厚み計測、体温、呼吸数、心拍測定、レントゲン撮影、採血、ツベルクリン液

- 9/ 1. ドバトとキジバトを各1羽保護しました。
- 9/ 4. ヤギが下痢をしたので治療を始めました。
- 9/ 5. ニシローランドゴリラのオス“ゴロ”の健康診断を実施しました。
- 9/ 6. ソウゲンワシが元気がなくなり食欲不振になったので治療を始めました。

**9月9日** アカカンガルーのメスが1頭福岡市の海の中道海浜公園動物の森から入園しました。検疫終了後、9月19日からほかの仲間と同居展示しました。



- 9/10. 6月2日にふ化したコンゴウインコのヒナが自分で餌を食べ始めました。
- 9/13. 強風に乗って飛ぶのを防ぐため、フラミンゴの羽を切りました。
- 9/14. 夜行性動物舎でエジプトルーセットオオコウモリの赤ちゃんが2頭生まれているのを確認しました。

**9月15日** 敬老の日にちなみ、当園の最長飼育動物であるアジアゾウの“春子”にリン



ゴなどの果物をプレゼントしました。“春子”は1950年に推定年齢1歳で入園し、今年で45歳になりました。

- 9/16. 今年4月にふ化したニホンコウノトリのヒナの性別を染色体で調べるため、皮膚の一部と血液を採取しました。
- 9/17. タヒバリを1羽保護しました。

**9月19日** フランソワルトンの赤ちゃんが1頭生まれました。全身黒っぽいサルですが、赤ちゃんは黄金色をしています。これは幼児色と呼ばれ、毛が生え換り黒くなるまでは仲間から子供として扱われるとい



われています。

## 今月もおもしろ情報満載

# ZOO DIARY



**9月20日** 上海動物園との間で行っている動物

交流の第10次動物輸送団3名が上海に向け出発しました。今回はパタスザルなどのサル類3種類とインコ類5種類を贈りました。



この日から始まった動物愛護週間にちなみ、園内で獣医師による無料動物相談コーナーを開設しました。また、今年7月に募集した動物の愛護標語の入選作品5点と児童動物画の入選作品の展示を園内展示室で25日まで展示しました。

**9月23日** 動物総合感謝祭を行い、動物



代表として今年5月生まれのニホンザルの赤ちゃんが慰霊碑に献花しました。

- 9/24. キジバトを1羽保護しました。
- 9/27. 外気温度が下がってきたので、この日よりレッサーパンダの屋外展示を始めました。
- 9/28. 6月4日に生まれたマレージャコウネコ4頭の性別判定を行ったところ、3頭がオス、メスは1頭でした。
- 9/29. 台風26号の接近にともない、午後2時30分から臨時閉園しました。
- 9/30. タマシギを1羽保護しました。

## ■お知らせ■

●動物園のおじさんのお話  
「はてな大集合 パートII」  
日時: 11月20日(日) 午後1時~  
場所: レクチャールーム

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑 一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修  
B5変型判・オールカラー  
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、  
自然の中ではどんな暮らしをして  
いるのか？ 動物園での世話  
の仕方は？ 仲間は？ など、  
写真と精密イラストをまじえ紹  
介します。

くらしといかたシリーズ<既刊本>  
B5変型判・オールカラー・各定価680円

### むし くらしと いかた

野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきもの くらしと いかた

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

# 新・きれいな色 FUJICOLOR SUPER G ACE 400



カマロの大林  
桜橋本店 ☎341-8091  
阪急三番街店 ☎372-5031

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

# 動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する  
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家  
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

<研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載>  
会費/年1,500円(切手72円・呈既刊号目次)

## 動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作  
貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」  
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキで  
お申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800(50度用)

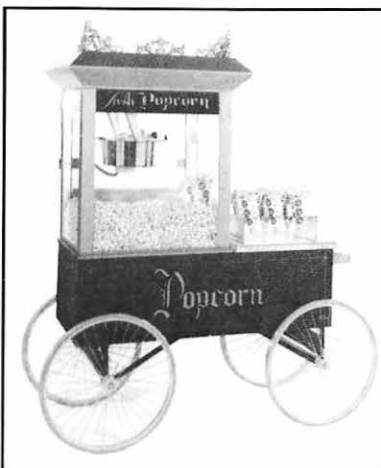
## 天王寺動物園の本 入園の記念・手引に……



オールカラー  
**500円** 園内売店にあります。

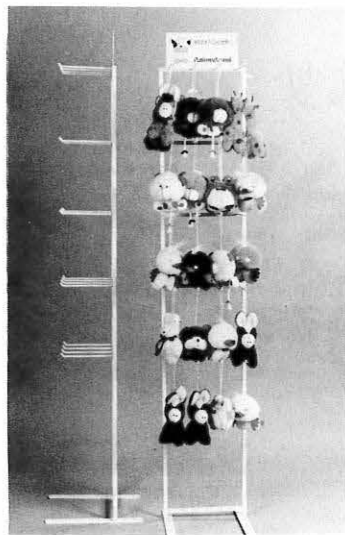
大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

## マスターのポップコーン



<営業品目> 製造機械・保温機 他  
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30  
TEL (06)865-0165

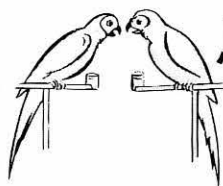


# 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

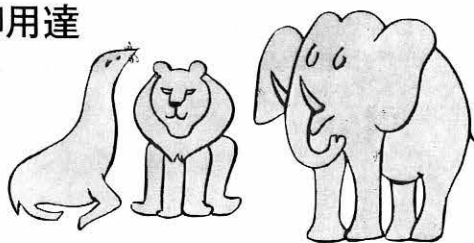
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL: (06)704-8580  
FAX: (06)704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

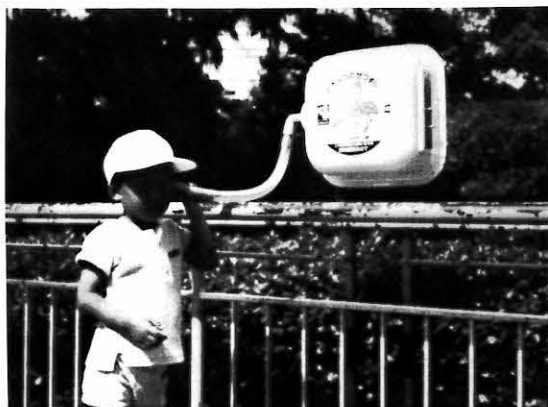


## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

### たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

### 動物園内での お食事、 ご休憩は



動物園内.....

## 中央売店

TEL 06-771-0973

お食事・飲もの・おみやげ 動物園内  
**南園売店** TEL 06-771-7110



### 思いやり、ほんの少し、コアラのために。



多くの思いやりが、ひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援します。  
多くの人に支えられて育ってきたコアラのマーチ。

一方、コアラのふるさとオーストラリアでは、シドニー近郊の山火事などにより、コアラたちの安住の地が年々少なくなっています。  
そこで、ロッテでは、コアラのマーチ誕生10年を記念するキャンペーンを実施するとともに、  
コアラを取りまく環境を守ろうと、オーストラリア・コアラ基金(1986年設立)のゴールドスポンサーになりました。  
コアラのマーチを支えてくれる皆様の思いやりがひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援いたします。

**LOTTE**





Our Yogurt has fruity  
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と  
覚えてね。



ほりたてミルクのおいさが、生きている。

雪印  
**オガール**

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HJIRI-KOJIMA

一日  
愉快地  
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

**久竹娛樂株式会社**  
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1994年11月10日発行(毎月10日発行)第30巻 第11号 (通巻351号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 00930-2-37823

編集委員

(中山良三郎/岩倉善樹/増野悦敏/樽本 勲/中川哲男/山根和弘/吉本昌俊/谷森 進/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭)  
森本委利/中上正幸/堀内智生/小林崇宏/竹田正人/大野尊信/野口秀高/早川 篤/土谷正道/村上勇一/仁田原洋)